

人口回復の兆しについて

市長短信
H29年4月25日

1 糸島市誕生以来続いた人口減少に歯止め

■人口の推移

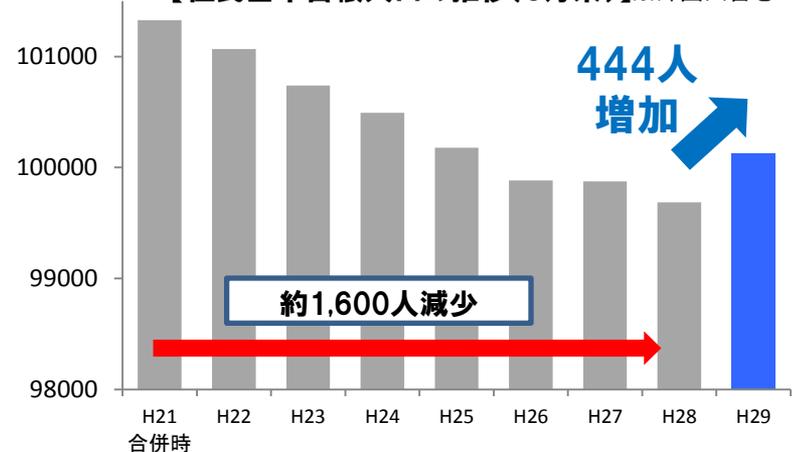
- 糸島市誕生時（H22年）をピークに、人口は減少し続けてきた
→平成28年3月までに、約1,600人が減少
- 高齢者人口は増え、若年層の人口が減少している。
→出生数の減、就職時の転出などが主要因

【人口構成割合の推移（H22→H28）】

- 高齢者（65歳以上）の割合：20.0% ⇒ 26.7%（全国：27.7%）
- 若年層（40歳未満）の割合：44.0% ⇒ 39.0%（全国：39.2%）

- 今年度、減り続けた人口が増加に転じた。
年間、平均で約230人減少していた人口が、444人増加に転じた。

【住民基本台帳人口の推移(3月末)】※外国人含む



2 持続的な自然増加と社会増加に向けて

■今年度の人口増加について

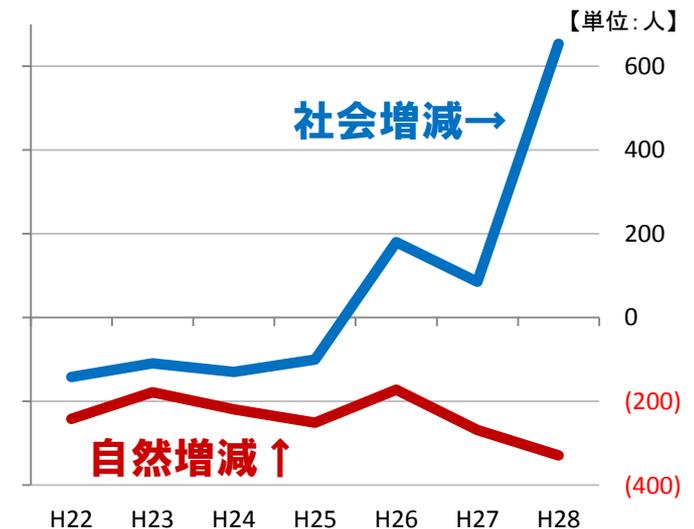
今年度は、5年ぶりに10万人を超えてのスタート（H29.3月末:100,131人）しかし、増加した中身を分析すると気が抜けない要素も確認できる。

➢平成28年度の増減分析

- ・自然増減：329人減少 ← 例年以上の減少
- ・社会増減：653人増加 ← 例年に比べ突出して多い（年平均：▲36人）
⇒住宅開発（伊都の杜行政区、小規模開発、集合住宅等）による影響が大きい。
逆に、自然増減はマイナスが大きくなっている。

➢今後の取組の方向

- ・出生率向上による「自然増」の向上
- ・高齢者の健康増進による「自然減」の抑制
- ・定住促進策（住宅確保、働く場づくり、子育て支援等）による「社会増」の維持
- ・継続した「豊かな暮らし（糸島生活）」に関する情報発信



マダイ漁獲量 5年連続「日本一」

1 玄海灘の豊かな自然が支える「日本一」

■市町村別マダイ漁獲量 5年連続「日本一」

- 「海面漁業生産統計調査（農林水産省）」による統計
→平成23年度～平成27年度の5年間にわたり、糸島市は漁獲量が日本一
→2位に2倍以上の差を付けており、漁獲量は突出して多い。

➢豊かな漁獲量

- 本市では、「吾智網漁」によるマダイ漁が盛んに行われているのが特徴。
- 豊かな玄界灘の水産資源と漁業に携わる方々に支えられた日本一である。

【平成27年度魚種別漁獲量(マダイ)】

順位	市名	水揚量
1	糸島市	1,112t
2	今治市	510t
3	福岡市	464t
4	佐世保市	405t
5	天草市	395t

2 日本一のマダイを生かすために

■「出口」の創出

➢加工品の開発・販売

- (JF糸島) 味噌バターっ鯛、糸島真鯛めし
- (やますえ) 鯛起万世
- (福吉水産) 小鯛のオリーブオイル漬け、鯛の昆布め

→食品産業クラスター協議会等の取組を活発にし、新たな商品開発を促進

➢販売戦略の検討にあたっての課題

◎マダイの価格

- ・吾智網のタイの価格はここ10年ほどで大きく下落している。
H17年：1,172円/kg
H27年：631円/kg
→販売単価を上げる取組が必要

◎糸島ブランドとしての統一化

- ・漁獲方法や鮮度の維持方法にばらつきがあるため、品質や販売価格の統一化が難しい。
→「糸島マダイ」として、広く展開するため「地域おこし協力隊」を活用した取組を進める。

